



学校だより

小田原市立橋中学校

令和8年7月17日発行 第5号

校訓：豊かさ・確かさ・たくましさ

小田原市立橋中学校

校長 松澤 文恵

明日から 45日間の夏休み（今年はいつもより少し長め）が始まります。

厳しい夏の暑さに負けずに咲き誇る花に「向日葵」があります。「向日葵」は太陽に向かって咲く姿から、前向きなエネルギーや希望を象徴し、その花言葉は「元気」です。みなさんが胸を張って、元気に9月1日を迎えられることを心から願っています。



失敗や過ちにきちんと向き合う

7月9日（木）～15日（水）に保護者面談を行いました。4月からの3か月余りの学校生活について、学習面や生活面、人間的成長を担任と生徒、保護者の三者で振り返りました。より良い自分になるために、目標とする自分に近づけるように、改めて自分の行いを変えようと決意した人も多いのではないのでしょうか。

さて、失敗や過ちに気づいたとき、みなさんはどのように対応しているでしょうか。

自分の過ちや失敗を素直に認めることのできる人は、強い人です。間違った行いを指摘されたときに、素直に「私がやりました。悪いことです。ごめんなさい」と、自分の非を認めて謝ることができれば、その行為を改める行動に変えていけることができるからです。そして、そのような人は、人から可愛がられ信用されます。

言い訳やうそをついてまで、自分の非を認めようと思えない人もいます。これは、本当に自分は悪くないと思っているのではなく、心のどこかで「しまった」と思っているのですが、それを自分自身で認める勇気がないのです。それで、思いつく限りの言い訳やうそを言ったり、人のせいにしたりして、自分の非を認めることから逃れようとしてしまいます。そして、そのような人は、いつまでも自分の非を認める勇気を持つことができないだけでなく、嫌なことから逃れるためなら、言い訳やうそをつくことが普通になってしまい、友達の信用を裏切ることをしてしまう…。そんな弱い人、信用されない人になってしまいます。

過（あやま）ちを改（あらた）めざる これを過（あやま）ちという

中国の『論語』の中の孔子の言葉です。「過ちを犯していながら改めないのが、ほんとうの過ちだ」というものです。失敗や過ちに気づいたら、まずは自分の心と向き合いながら弱い気持ちと戦う、そのような強い人でいてほしいと願っています。

橋中学校学校運営協議会のみなさま

富松 国雄（保護司）（敬称略）
北村 千波（前羽地区自治会連合会長）
峯尾 興（下中地区自治会連合会長）
山口 博（前羽地区青少年育成協議会長）
岸 幸雄（下中地区青少年育成協議会長）
沼田 照義（同窓会長）
内田 佳織（主任児童委員）
津田 早紀（地域有識者）
松本 浩平（PTA会長）



学校と保護者や地域の皆様とともに知恵を出し合い、意見を幅広く聞きながら、「地域とともにある学校づくり」を推進するための応援団としてご協力いただいています。



第1回学校運営委員会は6月10日（水）に行われました。授業や生徒の様子を参観していただき、学校運営についての協議では和やかな雰囲気の中、建設的な意見をたくさんいただきました。



熱中症に注意！！

6月19日（金）に教職員の熱中症予防研修を行い、夏場の部活動での対応などを想定し、AEDの使い方や心肺蘇生法の練習をしました。

今年は14年ぶりと言われる涼しい6月でしたが、夏休み突入と同時に梅雨明け、夏休み中は酷暑が予想されます。

夏休み中も熱中症には十分気を付けて、元気に過ごしてください。それでは、よい夏休みを！

